

こうのとり通信

～兵庫県助産師会だより～

一般社団法人 兵庫県助産師会
第2号(14) 平成25年3月1日発行
(発行部数 450部)
発行責任者 岡田 浩子
編集責任者 中村 京子
神戸市中央区花隈町9-25
グラン・ピア下山手通 003
TEL: 078-362-1310
FAX: 078-362-2737
URL: <http://www.o-stork.jp>

ごあいさつ

一般社団法人兵庫県助産師会

会長 岡田浩子

新しい年を迎えそれぞれの場所、お立場でご活躍のことと思います。

本会も昨年一般社団法人が設立し2年目を迎えました。また昨年11月3日、本会の創立80周年記念式典が行われました。盛大で華やかな式典となりました。これも会員の皆様のご協力によるものとお礼申し上げます。

またこの記念式典を開催するにあたり80歳以上の会員数を調べましたところ、27名の方がおられました。近畿2府4県ではトップの座を占めるであろう程の人数でした。ご高齢の方が会員として登録して下さるその思いを、私達が受け継いでいかなければならないと強く心に誓います。同時にいつまでもお元気で活動して下さることを念じます。

社団法人日本助産師会が昨年10月1日に公益社団法人日本助産師会となり、今まで以上に公益性が求められることとなります。機関紙「助産師」を読んでいただき、日本助産師会の動向を把握していただきますようお願いいたします。大きい変化については、定款・細則の変更、会費の値上げ、IT化の導入です。IT化の導入により、今まで助産所からの転院報告・異常報告は安全対策委員長から紙にて報告していたのが、各助産所から直接日本助産師会に報告することになりました。また開業基準も作成されました。

兵庫県助産師会も、日本助産師会の動きを見ながら独自に活動していかなければなりません。各委員会にはそれぞれの担当理事がいますので、理事を通して理事会にご意見をお聞かせください。現在、理事会では平成25年度の事業計画の検討に入っています。財政の厳しい中どのように乗り切るか苦慮しています。会員の皆様にもご協力いただきますようお願い申し上げます。

日本助産師会から、平成25年2月18日に災害時における会員の安否確認を一斉に行うよう、指示がありました。兵庫県助産師会では、災害対策理事・災害対策委員長を中心にして安否確認方法を検討し、実施致しました。ご協力いただきありがとうございます。

会員の皆様のご健康とご活躍を祈念いたしますと共に、本年が幸多い年となりますよう努力いたしましょう。



兵庫県助産師会からの重要なお知らせ

- (一社)兵庫県助産師会 通常総会 5月18日(土) 場所: 私学会館
- (公社)日本助産師会 通常総会 5月23日(木)～25日(土) 場所: あわぎんホール(徳島県)

一般社団法人兵庫県助産師会創立80周年記念式典・祝賀会

平成24年11月3日(土)神戸ポートピアホテルにて、創立80周年記念式典並びに祝賀会が24名の来賓の方々を迎え、63名の会員が出席し盛大に行われました。

～記念式典～

オープニングは、会の歴史と歩みをスライド上映しました。岡田浩子会長の挨拶では、会の歴史と女性の生活に密着した助産師の活動が紹介され、女性の傍で身近な存在として活動していくことの大切さと各機関との連携強化の必要性が話されました。



会長挨拶

来賓の祝辞では、女性や子供を取り巻く環境の複雑さが増す現状における助産師活動の重要性と期待が述べられました。

続いて、歴代の支部長と会の役員を10年以上勤めてくださった5名の方に感謝状が贈られました。中井恭子元支部長の謝辞では、長い歴史を持つ会の活動を支えてくださった諸先輩への感謝の気持ちが述べられ感極まられる場面があり、会員としても涙があふれました。多くの先輩に支えられ今日を迎えることができたと感じた瞬間でした。

この1年間の各賞受賞者6名への花束贈呈が行われ、受賞者を代表して和田さかゑ様より謝辞が述べられました。



受賞の皆様

落語家の桂あやめ様による記念講演では「先人の技を未来につなぐ」というテーマで、女性落語家の先駆けとして活躍される前の弟子入りのきっかけから、師匠から無償で受け継ぐ落語の技まで、笑いあり、涙ありの90分でした。ご自身の出産、育児にも話は及び、産後3カ月の育児教室での看護職からの「よく頑張られましたね」の一言に涙が出たことを10年経った今でも涙と共に語られました。ご自身の苦しかった体験を落語の中に笑いとして昇華されていく感じが感じられました。この後、閉会のあいさつ、参加者全員での記念撮影が行われました。

来賓祝辞

兵庫県知事	井戸敏三様 (代読・吉本知之様)
兵庫県議会副議長	野間洋志様
神戸市長	矢田立郎様 (代読・長田淳様)
神戸市議会議長	藤原武光様
公益社団法人日本助産師会 会長	岡本喜代子様

感謝状授与

川口芳子様 中井恭子様 小坂素子様
稲垣よしゑ様 立山サナミ様

表彰者花束贈呈

瑞宝単光章 和田さかゑ様
厚生労働大臣賞 本玉みゑ子様 佐々木しゅう様
赤松彰子様
兵庫県看護功績賞 村上恵美子様
日本助産師会会長賞 頓田眞子様

～祝賀会～

岡田浩子会長の挨拶に続き、稲垣よしゑ様の乾杯の音頭で幕をあげ、来賓の方からの祝辞へと続きました。

社団法人兵庫県医師会 副会長 西田芳矢様は、産科医療の厳しい現状と助産師への期待に加え、助産師会の研修の講師をお引き受けいただいていることや、助産師の勉強熱心さに感心されていることなどお話をいただきました。

アトラクションは三味線の演奏で、津軽じょんがら節の迫力ある音色に酔いしれました。

会員による演目は、プロ顔負けといった様子で、日頃の忙しい助産師活動の合間を縫って様々なこと

にチャレンジ、遺憾なく才能を発揮されている姿に助産師魂を感じました。様々な演目を楽しみながら食も進み、和やかな雰囲気の中、会話も弾みました。



新舞踊・吟詠詩舞



出席者全員で「ふるさと」を合唱

祝賀会の終盤には、先輩助産師からのメッセージと県内助産師の活動の様子がスライド上映されました。先輩からの技を引き継ぎ、様々な場で活躍する助産師の様子が感じられました。

最後は稲岡道子副会長の音頭に合わせたの一本締めで、盛会のうちに終了となりました。今回の式典・祝賀会で多くの関連団体との連携をより強化し、会員が力を合わせ、会のさらなる発展のために邁進していく思いを一つにしました。80周年記念実行委員の皆さま、相談役 川口芳子様、稲垣よしゑ様、大変お世話になりました。ご協力いただいた会員の皆様ありがとうございました。

来賓祝辞

社団法人兵庫県医師会 副会長 西田芳矢様
 公益社団法人日本産婦人科医会兵庫県支部
 支部長 大橋正伸様
 公益社団法人兵庫県看護協会
 第一副会長 中野則子様
 公益社団法人日本助産師会近畿地区
 地区理事 大田祐子様

アトラクション

三味線／高橋黎祐とその社中

会員による演目

吟詠詩舞／和田さかゑ様
 新舞踊／相馬栗子様・大塚記美代様
 歌と踊り／助産師会AKB
 合唱／出席者全員

80周年記念実行委員長 小坂素子
 広報担当理事 井上千秋



一般社団法人 兵庫県助産師会 創立80周年記念式典 平成24年11月3日 於：神戸ポートピアホテル

● 理事会 ●

庶務担当理事 坂田富貴子

平成 24 年度の兵庫県助産師会研修会及び委託事業等は、皆さまのご理解とご協力により順調に進展しています。

昨年 11 月 3 日には、80 周年記念式典・祝賀会を盛会に実施することができました。理事会会議は毎月 1 回開催し、下記のような内容について審議しています。上半期を終え、今年度の活動評価とともに平成 25 年度事業計画案、それに伴う予算案も検討の時期になっています。

また、昨年 10 月に公益法人化が実現した日本助産師会と連携し、会員の動向や研修内容の充実等に向け、理事会審議事項の検討を行っています。

皆さま方へ広報が迅速に行えるよう、ホームページの充実を図る検討会を重ねています。広報誌「このとり通信」やホームページを通して会員と理事会が、顔の見える組織となりますようお願いしています。どうぞよろしく願い申し上げます。

〈理事会での主な審議事項〉

- ・三部会・ブロック代表者会・各委員会会議の報告並びに提案
- ・事業進捗状況
- ・会計運営状況
- ・庶務報告並びに提案



● 部会 ●

〈助産所部会〉

部会長 石村朱美

満月です！夜空の月と星がキラキラと輝いて「もうすぐ新しい命を贈りますよ、しっかり受け止めてくださいね。」と後押しされているようでした。

～活動報告～

1. 病院との連携に関しては、新しい産婦人科部長を迎えた病院との 2 回に渡るカンファレンスを実施。新たなる関係による相互理解を深めようとしています。
2. 助産所ガイドラインの見直しに取り組んでいる本部よりのアンケート調査に各助産所が回答しました。新しいガイドラインが妊産婦にとってより良い内容になることを期待します。

3. 助産所安全機能評価については、安全対策委員会に他者評価の実施を依頼しました。次年度実施を目標に前向きに検討するとの返事をいただきました。今年は昨年に引き続き助産所間の相互評価になります。
4. 上半期助産所分娩件数合計 230 件、転院件数 57 件でした。嘱託病院のスタッフの方々のご支援に感謝致します。



〈保健指導部会〉

部会長 頼田真子

昨年9月に「このとり通信」に報告してから5か月がたち、新体制に慣れないまま頑張っているところです。

部会企画の電話相談研修（基礎編）、助産師による新生児訪問研修は好評にて終了しました。また、公益事業の「望まない妊娠に関わる専門職研修」でも部会員のみなさまに協力していただきました。他の専門職（保健師、教員など）の参加も多く、ロールプレイなどを通じた実践的な内容で好評でした。

今年3月3日（日）には当会の子育て女性支援セ

ンターと協力して「心育てる 子育てフェア」を実施いたします。これは、助産師が地域に出て母親や家族に対し地域ぐるみで子育て支援をするという取り組みです。近くの方は、ぜひご参加ください。

現在助産所マップがありますが、そこに保健指導部会で開業活動している人のマップ作成も一緒にして欲しいと三部会長会議に提案しています。

次回の部会定例会は3月16日（土）10:00～です。委員会、ブロック代表他部会員の皆様、参加をお願いします。

〈勤務助産師部会〉

部会長 総毛 薫

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、一般社団法人兵庫県助産師会として新しい組織がスタートするとともに、兵庫県助産師会が80周年の歴史を重ねた記念の年でもありました。

「先人の技を未来につなぐ」というテーマでもたれた記念式典でのスライドの上映では、先輩助産師の方々の活動場面を拝見させて頂き、80年という時間の中で助産師としての活動が継続されたことに大きな感動を覚えました。先輩方につないでくださったバトンを勤務助産師部会の助産師として次の世代へつないでいかななくてはならない

役割は何なのか考えさせられました。大切に守っていかなくてはならないもの、変わっていかなくてはならないものを考えながら活動できる部会でありたいと考えます。

部会では、今年度「勤務助産師会活動の継続と発展」を目指して活動しています。研修会の開催とともに、勤務されている病院や学校において会員の方々の声を兵庫県助産師会に発信できる施設が増え、助産師の声が反映できる助産師会の活動となるように役員一同で頑張っていきます。25年度もよろしくをお願いします。

勤務助産師部会主催の研修会の報告

○「新人助産師フォローアップ研修」

（平成24年6月16日（土）終了しました）

神戸市看護大学の高田昌代先生をお迎えしてこれからの助産師に求められることについて、お話とファシリテーションの実践モデルを示して頂きました。助産師1年目、2年目の参加者がありました。体を動かし、語り合い、話しに耳を傾けてお互い思いを共有することでパワーを充電し、笑顔で職場に帰っていくことができました。今後も新人研修は継続して開催予定です。

○「ファシリテーター養成講座」

（平成25年2月16日（土）終了しました）

池住善憲先生をお迎えして臨床や教育の現場、助産において必要なファシリテーターの役割を語って頂きました。

中堅・ベテラン全ての助産師向けの研修でした。



・ブロック・

～一般社団法人兵庫県助産師会のブロックの役割について～

担当理事 立山サナミ

1. ブロックとは

平成24年5月の一般社団法人兵庫県助産師会設立に伴い、新しい組織として兵庫県の行政区割りにあわせ10ブロックが置かれ、ブロックの下に地区が存在するという組織になりました。

地区（市町村、神戸市においては区）は、助産師部会・保健指導部会・勤務助産師部会が一つの助産師会として活動します。地区活動に当たっては、市町村（神戸市においては区）単位が基本となります。しかし、助産師会員数が少ない地区は、ブロック内において協力する必要もあるでしょう。

2. ブロック長の役割

地区活動・理事会の情報提供・課題検討等を会員へ連絡し調整することが主な役割です。また、ブロック内の会員からの助産師会に関する意見や希望を集約し活動に活かします。各ブロック代表者名は9月25日発行の「このとり通信」をご覧ください。

3. 現在の活動内容

地区としての活動は多彩です。一般市民対象に産後2か月未満の赤ちゃんとその家族を対象とした「おっぱいサロン」、市や他団体と協賛で乳幼児対象の

「ベビーオイルマッサージ」・「ベビーストレッチ体操」・「抱っこボックス」、および妊婦対象の「マタニティボックス」・「女性何でも相談」などがあります。中学生や高校生への「性教育」も実施されています。

また、市町村委託の「新生児訪問事業」・「マザークラス担当」など、地域母子保健活動として貢献しています。

4. 今後の課題

地区活動は3部会が一つの助産師会として活動していくことです。また、災害時母子支援活動の確立なども今後望まれる活動です。例えば、東京都文京区においては妊産婦専用の救護所を設置し、災害時には体調を崩しやすい妊産婦や乳児を守るために助産師を派遣しケアすることが決定し、都助産師会・都助産師会館と区役所において協定の調印がされています。西宮市においても市と検討中です。検討内容は、避難場所となっている学校の一部教室を母子専用避難室として平常時から明記する、妊産婦に必要な備品を常備する、災害時派遣助産師は新生児訪問の担当地区助産師とするなどです。各部会員がお互いの立場を理解し、助産師職能として地域母子保健に貢献する努力をしましょう。

ブロックを構成する地区割り

ブロック	地 区
神戸ブロック	東灘、灘、中央、兵庫、長田、須磨、垂水、西、北
阪神南ブロック	西宮、尼崎、芦屋
阪神北ブロック	宝塚、伊丹、川西・猪名川、三田
東播磨ブロック	明石、高砂、加古川、播磨、稲美
中播磨ブロック	姫路、市川、神河、福崎
北播磨ブロック	西脇、三木、加東、小野、加西、多可
西播磨ブロック	たつの、赤穂、宍粟、太子、上郡、佐用
淡路ブロック	洲本、南あわじ、淡路
丹波ブロック	篠山、丹波
但馬ブロック	豊岡、養父、朝来、香美、新温泉

topics (トピックス)

このコーナーでは、皆さんに知っていただきたい最近の出来事や助産師会からのお知らせを紹介します。

1. 母子保健法改正の要点について

母子保健法の改正により、平成 25 年 4 月 1 日より「低体重児の届出の受理」(母子保健法第 18 条)、「未熟児の訪問指導」(同法第 19 条)、「未熟児養育医療の給付」(同法 20 条)の事務が、県から全ての市町に移譲されます。

これにより、妊婦健康診査費用の補助、新生児訪問、乳幼児健診などの母子保健の事務や事業を市町が一貫して実施することになります。

兵庫県では、未熟児等継続した支援が必要な母子について、従来から「養育支援ネット」で情報提供を受けていますが、未熟児の情報提供先は市町になります。

また、未熟児養育医療の申請窓口が県健康福祉事務所から市町に変更になります。自己負担金徴収の取扱が市町により異なりますので、詳細は各市町保

健センター等にお問い合わせください。なお、診療予定期間が平成 25 年 3 月 31 日を超える場合、県が発行する養育医療券の有効期間は 3 月 31 日までで、4 月 1 日以降は市町が発行しますが、保護者の同意を得た上で関係書類を県健康福祉事務所から市町へ提供しますので、市町への改めての申請は不要です。児童虐待や育児不安の増大など、母子保健を巡る背景は複雑化していますが、安心して妊娠、出産、育児ができるよう、助産師会会員の皆様には今後ともお力添えくださいますようお願いいたします。

<お問い合わせ>

兵庫県健康福祉部健康局健康増進課保健指導係
電話 078-362-3250

2. 災害対策について

災害対策委員長 青山恭子

阪神淡路大震災から 18 年目をむかえました。東南海・南海地震の被害想定も見直されましたので、会員の皆様も減災・防災について再確認していただければと思います。

災害対策委員会では、昨年 11 月に「災害時の助産師の役割を考え、災害物品を体験・試食しましょう」をテーマに研修会を実施しました。阪神淡路大震災時の母子支援の実際を聞くことができ、災害時の助産師の役割について学ぶことができました。災害物品の体験・試食も好評でした。また、日本助産師会災害対策委員会企画の「地域特性に見合った災害対策マニュアルを作ろう」の研修に兵庫県から委員が 1 名出席しました。その検討結果を基に今年度中に兵庫県助産師会災害時支援マニュアル完成を目標に取り組んでいます。

災害時には近隣の助産師会の連携協力が不可欠です。近畿地区では、顔の見える関係を作るために平成 23 年 6 月から近畿地区災害対策委員会を年 3 回開いています。会議では災害対策の現状と課題を各県から報告して意見交換を行い、災害時の連絡網を作成しています。災害時にはまず各県災害対策委員長が情報交換をして会長に報告するようにしています。また、今年度中に日本助産師会から災害時の会員安否について訓練が予定されていますので、会員の皆様のご協力をお願い致します。

平成 24 年 3 月に出された日本助産師会災害対策委員会編集の「助産師が伝える災害時の知恵ぶくろ」、6 月に日本助産師会出版から出版された「助産師が行う災害時支援マニュアル」を活用していただきたいと思っています。

3. 早期母子接触について

安全対策委員長 小河原みゆき

正期産新生児を対象に出生直後に行われる母子の早期接触を「早期母子接触」=early-skin-to-skin-contact と呼び、NICU で早産児を対象に行われるカンガルーケアと二種類がある事はすでに皆様も承知の事と思います。

早期母子接触は科学的にその有効性が証明されています。医学的理由が存在しない限りその早期母子接触の機会を奪う事は医療従事者として避けなければなりません。一方、生後早期の新生児は胎外生活への急激な適応時期で不安定です。早期母子接触の適応基準、中止基準、実施方法など一定のルールを順守し、ケア提供者として、母子の最大の利益とな

るようにケアを考えていく努力が必要です。早期母子接触を実施しないとといった選択肢も含め実施しなかった、できなかったデメリットを克服するために、産褥期及びその後の育児に対するサポートを講じる事も求められています。

次年度安全対策委員会では「早期母子接触」実施の留意点に関する研修会を企画しております。また、早期母子接触を実施できなかった、もしくは実施しなかった後のサポートの実際について皆様との意見交換も行う予定です。

是非研修会にご参加いただきますようお願い申し上げます。

・研修会のご案内・

教育委員長 郷原寛子

新体制で始まった教育委員会での今年度の研修プログラムも残すところ、あとわずかとなりました。今年度の研修評価を踏まえ、来年度も引き続き、①助産実践能力向上のための研修の充実化、②人材育成のための継続的な研修の充実化、③院内助産の支援、④若手助産師の育成といった、4つの教育目標に沿った下記の3つの枠組みで研修プログラムを計画しています。

I 助産師のちからアップ研修 10 研修+新生児蘇生Aコース(オプション)

II 助産教育アドバンス研修 3 研修

III 助産特定研修 3 研修

*なお、研修内容や日程の詳細については、研修プログラムのご案内を3月に発送する予定ですので、もしばらくお待ちください。皆様のご参加をお待ちしています。



会員総数 347人 (平成24年1月25日現在)

平成24年度新入会員 20人 (平成25年1月25日現在)

助産所部会 2人 保健指導部会 3人 勤務助産師部会 15人

新規会員募集中 (まだ入会されていない方に入会をお勧めください)

編集後記

身近に親しんで読んで頂きたいという思いで、「このとり通信」を皆様の手元にお届けします。各委員会・各ブロック・会員の皆様からのご掲載希望や「このとり通信」へのご意見がありましたら、各部長を通してお知らせください。最後になりましたが、ご執筆者の皆様にお礼申し上げます。今後とも宜しくお願い致します。(広報委員 中野純子)